

# 青梅市 自治会・支会活動事例集

平成27年度版



編集・発行 青梅市・青梅市自治会連合会

## 自治会・支会事例集の発行にあたって

青梅市内には、平成27年度現在11の支会、172の自治会があり、それぞれの地域特性にあったさまざまな活動を展開しています。

魅力ある自治会・支会活動を事例集としてまとめ、活発に取り組まれている自治会活動を広く市民の皆さんにお知らせすることとしました。

各自治会の活動内容や、地域の安心・安全のための防災活動などを掲載していますので、自治会活動の参考にご活用ください。

青梅市・青梅市自治会連合会



# 自治会・支会活動事例集 目次

「土砂災害対応訓練を実施して」 第1支会	1
「地域環境美化活動と防災意識向上」 勝沼2丁目自治会	2
「盛況だった新年餅つき大会」 滝ノ上自治会（第1支会）	3
「青梅市自治会連合会第二支会連合組織」 第2支会	4
「黄色旗の配布について」 第2支会	5
「駒木町連合自治会防災学習会」 駒木町連合自治会（第2支会）	6
「霞川清掃」 第3支会	7
「伝統行事を守り続けて」 谷野自治会（第3支会）	8
「盆踊りの『輪』で地域の『和』を」 梅郷1・2丁目連合自治会（第4支会）	9
「明るい思いやりのある“まちづくり”」 梅郷3・4・5丁目連合自治会（第4支会）	10
「避難所宿泊体験会の開催」 第5支会	11
「『地区の安心見守り活動』の実施」 二俣尾1丁目自治会（第5支会）	12
「消火栓取扱い訓練」 沢井2丁目自治会（第5支会）	13
「小曾木地区防災訓練」（小学校、中学校との連携による） 第6支会	14
「黒沢川清掃活動」 第6支会	15

「地域の応援とボランティア・歴史」	
第7支会	16
「年間を通しての自治会交流活動」	
東青梅1丁目自治会（第8支会）	17
「納涼盆踊り大会と稲荷神社祭礼」	
東青梅2丁目第1自治会（第8支会）	18
「体験・検証！避難ルートと非常食」	
新町末広町地区連合自治会（第9支会）	19
「いちばん賑やかな納涼盆踊り大会」	
新町末広町地区連合自治会（第9支会）	20
「自主防災訓練」	
新町1丁目自治会（第9支会）	21
「地域に根ざしたコミュニティ創り」	
新町7・8・9丁目自治会（第9支会）	22
「let's family golf！」	
河辺町8丁目自治会（第10支会）	23
「レクレーション大会の開催」	
河辺ダイヤモンドマンション自治会（第10支会）	24
「第11支会 ふるさとまつり」	
第11支会	25
「生活安全・環境パトロール」	
藤橋第2自治会（第11支会）	26
「2年毎の防災訓練の実施について」	
今井原今井自治会（第11支会）	27



# 第1支会 土砂災害対応訓練を実施して

青梅市自治会連合会 第1支会支会長 伊東 茂

青梅市地域防災計画にもとづき、避難準備情報発令想定のもと、第1支会の19自治会住民が自治会館等へ自主避難を開始するという土砂災害対応訓練が6月28日に実施されました。

青梅市民センター内の青梅地区災害対策本部では、特別警戒区域内の青梅坂で土石流の発生した場合を想定し、避難経路を考えるなどの実践的な訓練ができました。その後、風水害時避難場所でもある天ヶ瀬体育館およびグラウンドに参加者565名が集合し、浸水時にドアにかかる水圧ドア体験、毎時300ミリの降雨体験、3D映像で土石流を再現する自然災害体験、おもり付きベストや視野が狭まるゴーグルを装着する高齢者疑似体験など、皆真剣に取り組みました。

最近の異常気象による各地の天候などを考えますと、どれだけ多くの訓練体験をするかが大変重要であります。地域ぐるみで災害に備えるため、多くの方に各地域の防災訓練に参加していただきたいと思います。



DVD、広報コーナー



各町からの訓練参加報告



各町からの訓練参加報告



高齢者疑似体験

## 地域環境美化活動と防災意識向上

自治会長 中村 浩三 世帯数 266 世帯（加入率約72%）

春には”ホーホケキョ”の鳴き声で目を覚まし柿沢川（霞川上流）を中心に、奥に”風の子太陽の子広場・青梅鉄道公園・永山グランド”を拝し青梅丘陵ハイキングコースの入口と云った環境にある勝沼二丁目です。

### 【 地域環境美化活動 】

- 柿沢川清掃・地域全域の草刈り（自治会 環境美化委員中心にて）

毎年、青梅市“多摩川1万人清掃大会”の一環として”クリーン作戦”と称し実施しております。今年も猛暑の中早朝から子供～80歳の高齢者まで120名を超える参加にて柿沢川周辺、地域全体の環境が整備されるとともに、長年に亘る活動の結果“不法投棄”などみられなくなりました。

クリーン作戦終了後慰労と暑気払いを兼ねての“バーベキュー大会”も重ねること10回となり会員相互の懇親を深めております。



草刈りと河川清掃



子供参加のバーベキュー大会

### 【 防災意識向上活動 】

- 自然豊かな環境とは裏腹に当地区の大半が“土砂災害警戒地区等”に指定されており過去には河川の傾斜地に土砂崩れが発生し、加え一昨年、昨年と台風、集中豪雨で2年連続自治会館を自主避難場所として開放しました。

この様な状況から、地域住民の防災意識向上を目的とし《青梅市防災出前講座》を開催致しました。地域性を考慮した講座で改めて“自助・共助”の大切さを認識しました。多数の参加をいただき防災への関心の高さを感じ、高齢化のなか次の段階にと思っております。



青梅市防災課  
4名の講師による講座



# 盛況だった新年餅つき大会

第一支会 滝ノ上町自治会 会長 大場 昭夫

- ① 元旦の新年会に代わるもの
- ② 多勢の参加ができるもの
- ③ 子供達が楽しめる会
- ④ 自治会脱会防止につながるもの
- ⑤ 自治会って楽しいと言われるもの

そして、自治会加入の促進PRにも繋げたいと欲張りな計画のもと準備から片づけまで各種団体を含めた多勢の方にお手伝いをいただき何十年振りの自治会主催の餅つき大会を1月15日の日曜日に開催しました。

人を集める工夫として、自治会館清掃日と資源回収日に合わせて開催をしよう、自治会未加入世帯特にマンション居住者を中心にチラシ配布によるPR活動をしよう等

餅つきは若手の会員中心に、自治会役員とその奥さんたちは甘酒作りにと、又予定外で雛子連が焼き鳥、バーベキューをしていただく等大盛況でした。

子供からお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、グループホームの利用者さん、デイサービスの利用者さんそして自治会員以外の方等総勢85名の参加があり、また、自治会に3世帯の新規加入、滝和会(老人会)には4名の加入がある等、当初の目的は十分達成でき、地域の和=輪、絆を深めるため一定の効果もあり、来年もの声も聞かれる餅つき大会となりました。



# 青梅市自治会連合会第二支会連合組織

第2支会長 高橋 正

## 第二支会の構成

第二支会は、駒木町、上長淵、下長淵、友田町、千ヶ瀬町の5地区からなり、自治会数25、加入世帯約4,900と市内最大の組織となっております。また、この5地区においては、それぞれ3～7の自治会があり、その連合体である連合組織を形成しております。

## お祭りと連合組織

連合組織の成り立ちについては、定かではありませんが、各地区のお祭りに起因していると思われます。各地区には、神社がありそれぞれ奉賛会が組織されており、春、秋に例祭が行われております。特に春の祭礼においておいては、山車、神輿の巡行があり盛大に行われており、地域住民のコミュニティが図られておりますが、この繋がりが自治会活動にも反映し現在の基盤であると考えられます。

## 連合役員会と自治会長会議

支会としての自治会長会議は無く、毎月5地区の連合会長による役員会が開催しています。それを受け各連合での自治会長会議を開き、役員会の報告をしています。連合組織を持っている支会によっては、連合自治会長会議と支会自治会長会議を行っている支会もありますが、第二支会においては、自治会数が多い事や自治会長の負担を軽減するために、支会全体の自治会長会議は開催しておりません。

## 連合組織の事業

単位自治会での活動は、幾つかりありますが、基本的には無く全て連合組織の事業と活動しております。その主な内容としては、防災訓練、資源回収、盆踊りおよびラジオ体操の会等を行っています。特にラジオ体操会については、夏休みの1週間、朝6時から実施しており老若男女の方々が多数参加しております。また、前記しました祭礼にも深く関与しており地域活動のコミュニティに寄与しております。



今では、珍しい夏休みラジオ体操の会を連合毎に開催しています。



## 第二支会災害時「無事旗」配布！！

阪神淡路大震災以降、災害時には地域住民等における共助による救出が、初動において大切であると言われています。その共助のひとつとして安否確認がありますが、その方法として無事である旨を周知するため、「無事旗」を軒先等に掲げ素早い安否確認が出来れば、共助もスムーズに行えるものであり、全国的にも波及しております。第二支会においても、平成26年9月以降、各連合自治会の防災訓練時等において下記の文書により説明し配布しております。

### 大災害発生時の安否確認

# 黄色旗の配布について

この度、青梅市自治会連合会第二支会では、「無事」の黄色旗を作成いたしました。

大震災や土砂災害等で家族の方々が「無事」であれば玄関先等目立つ所に掲示してください。

また避難所等に避難した時にもご利用ください。



「はた」は、いつでも取り出せるように決まった場所で保管しておいてください。

青梅市自治会連合会第二支会

この事業は、「平成26年度東京都地域の底力再生事業」対象事業です

# 駒木町連合自治会防災学習会



平成27年9月27日（日）に、駒木町1丁目から3丁目までの駒木町連合自治会による「地域防災学習会」を駒木町自治会館において、地域住民105人の出席をいただき開催しました。

講演会に先立ち、東京都で作成した「防災ブック」の説明を青梅消防署長淵出張所の久保所長から説明を受けました。

講演会は、「首都直下型地震の備えと地域防災力の向上」をテーマに元防災・危機管理教育講師の岩崎健次氏の講演で、日々の御近所付き合いがいかに災害時に反映することになるか、

そのための地域防災組織の充実が必要であるとの講演でした。

青梅市は、比較的災害に強い地域と言われていますが、近年の異常気象と思われる大雨、大型の



台風による風水害は、地盤の強い青梅市でも例外ではありません。その為に平素からの準備、近所付き合いは大切なことであると、より感じ、そのための地域組織も大切であると再認識したものであります。



なお、この学習会は、地域防災訓練の一環として東京都の事業である地域において防災に関する事業等を行う場合に講演会の講師等の派遣を支援する

**「地域防災学習交流会」の制度**を活用して行ったものであります。



# 『霞川清掃』

第三支会長 本橋 正浩  
自治会加入世帯数 2,746 世帯

第三支会では様々な行事を行う中で、環境に関する取り組みとして「霞川清掃」を昭和61年から継続して実施しております。

大門地区（第三支会）の中心を流れる霞川は、根ヶ布の天寧寺裏の霞池を水源としており、いくつかの小川と合流し入間川となり、最後は荒川となります。

大門地区では、昔から増水で氾濫が幾度もあり、平成11年の大雨では一部の家屋が、床下浸水の被害に遭いました。このことから護岸工事が着手され、現在も計画途中の段階にあります。近隣の地区は田畑から宅地化が進み、人口増加の途中ではありますが、自然と共存していた昔の姿が失われつつあります。



自然と共存する為には、霞川の自然を守っていかうとする人達の手で、この川に生きる動植物を大事に見守り、子供達が川で遊び、魚取りや虫捕りをいつまでも続けて行ける様な自然環境を守ることが必要です。

現在、貴重な場所である霞川の水辺空間をこのまま残していけるよう、我々、大門地区の自治会員の有志が集まり、ゴミ拾いや草取りなどの清掃活動を行っています。今後も自分たちの手で、愛着のある霞川の自然を守るため、この行事を続けていくように努めていきます。





## 『伝統行事を守り続けて』

第三支会 谷野自治会長 本橋正浩

昔ながらの行事には、それぞれその意味がありまして、無病息災や厄除、極楽浄土への往生を願うものであったりします。

歴史を遡ること約 400 年前の江戸中期に谷野の真浄寺に納められた数珠（玉数 1,080 個で長さは約 10m）を人々が輪になって「百万遍よ」と言いながら数珠を回すという行事を、今も子供達が参加して行っています。これが終わると草鞋（わらじ）と呪符を竹に吊るし、町内 9 箇所を立てて悪い病気が入って来ないように願うことも続けて行っています。



次に、十王堂祈願祭があります。平安時代に十王信仰が各地に広まり、人が死ぬと極楽に行けるのか、地獄に落ちるのかを決めるのがこの十王の役目だったそうです。庶民の間ではこの十王をお祀りして、極楽浄土へ行かせてもらうことを願ったのです。現在は住職に読経をしてもらい、線香をあげて地域の安全や 1 年間健康でいられるようお願いしたりして最後にお礼



を頂いて終了となります。

十王堂には十体の十王像が安置されており、「蹴飛ばし地蔵」とも呼ばれています。この仏像は木彫りで 20cm から 30cm の大きさと顔も体も傷だらけです。その理由はこの像は子供達が投げたり蹴飛ばしたりして遊んでくれることを喜んでくれると言われていたからです。全く顔がない像もあり、江戸中期から約 50 年前までずっと蹴られ続けた歴史を残しています。お地蔵様と元気に遊ぶ子供に健康と幸せを託した古の人達の親心が伝わってくる心豊かな風習が残されていたのです。

百万遍や十王堂それから稲荷講など谷野以外の地域でも行事としてあった筈でしょうし、まだ今も続けている自治会もあろうかと思えます。今はまだ伝統を引き継いでいますが、時代の流れでいずれかはなくなってしまうのでしょう。

# 盆踊いの『輪』で地域の『和』を

連合自治会長 鈴木 信生

梅郷1, 2丁目は、全世帯数が約320（自治会加入率65%）の小さな地区ですが、ここ数年は転入者も増えて以前よりも活性化しています。

そのような中で、一人でも多くの人に自治会に入会して頂くよう加入活動を進めていますが苦戦中です。

しかし、転入者の方々が少しでも早く地域に溶け込めるよう地道な自治会活動を展開しています。

その大きな役割を果たしているのが、老若男女だれでも気軽に参加することができる「盆踊り大会」です。



【女性は浴衣、男性は普段着で踊りを】

「盆踊り大会」は、地元の踊り愛好会の人たちのご協力により数十年間継続していましたが、昨年愛好会の高齢化による解散に伴い、盆踊り大会の継続に危機が生まれました。



【出店を楽しむ子供たち】

これに代わる行事も検討しましたが妙案はなく、これを継続させるための方法を検討しました。

そこで、踊り愛好会だった人たちが活動している「福寿会」（地元高齢者クラブ）に協力をお願いした結果、福寿会の皆様のご協力により今まで以上に盛りあがった盆踊りを継続させることができました。

私たちの「盆踊り大会」の特長は、毎年多くの子供たちが参加することです。

子供たちにとっては、子供会のお母さんたちや地元消防団、芸能保存会など人々によるそれぞれの出店で、食べて遊んで体も動かせるたいへん楽しみの多い行事です。

事前に数回の練習会を設け、福寿会の皆様が子供会の人たち（親子）に踊りを教えることを通じて、お互いのコミュニケーションも深まってきました。

そして大会当日は、子供たちは教わった踊りを元気よく櫓の上で披露します。

子供たちが参加することで（自治会未加入の）親たちもいっしょに参加され、少しでも多くの地域の人たちとコミュニケーションを深めることができればよいと考えています。



【老若男女が一つの輪（和）になって】

このようにお年寄りから子供たちまでだれでも一つになって楽しめる「盆踊りの輪」は、地元や周辺地域の人たちの「大きな和」になっています。



## 第4支会 梅郷3・4・5丁目連合自治会 「明るい思いやりのある」まちづくり

連合自治会長

伊藤武夫 会員数512世帯

### 【納涼盆踊り大会】



今年も7月18日（土）恒例の【納涼盆踊り大会】が、賑々しく開催されました。地域の大勢の浴衣姿の老若男女が、青梅地域の民謡曲の音色に溶け込む一体感は名状しがたく、強い絆が生まれました。今年は、模擬店も「こだわりの炭火による焼鳥」「生ビール」等お客様に好評で喜ばれました。

お踊りも佳境に入り「お楽しみ抽選会で更に盛り上がり櫓を囲む輪も二重三重となり、手ぬぐい、うちわが舞い大勢の見物客も集って地域の絆が深まる夏の夜でした。



海禅寺山門の歴史を語る

### 【歩こう会・歴史探訪】

春と秋に交互に開催しております。今年は春の名残が惜しまれる5月31日（日）梅郷・三田・御岳地区の歴史街道の散策を行いました。豪族三田氏の歴史を刻む「海禅寺」・鎧塚・など文化財保護審議会々長の大澤清吾様

の説明に耳を傾けました。江戸初期（18世紀中期の建物）の面影を残す、都指定有形文化財の「福島家住宅」3代目当主の説明で、当時の格式高い歴史を学び当地の文化・経済を窺わせました。緑濃い御岳溪谷の遊歩道を歩き、河原の一角で疲れを癒し食事・恒例の抽選会で意義深い「歩こう会」も自由解散となりました。



福島邸の庭園で歴史を語る



# 「地区の安心見守り」活動の実施

## 活動概要

二俣尾一丁目自治会



取り付け活動

### 【1. 活動目的】

当自治会では、日常から会員が連携して相互の安否を確認することで、災害時以外にも「共に支えあいながら、いつまでも安心して住み続けることのできる地区」を目指す。

### 【2. 活動内容】

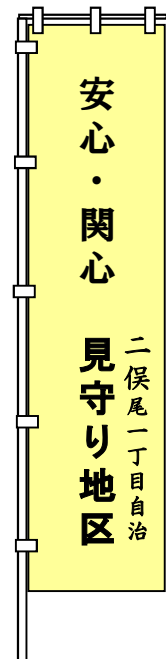
地区住民が気付きやすいような目印となる「のぼり旗」を設置する。また、希望する全世帯に「安心フラッグ」を取り付け、無事であることの意味表示として毎朝掲示し、夕方には収納と1年を通じてこの行為を繰り返す。



取り付け活動



安心フラッグ



### 【3. 活動予算】

・東京都「平成26年度地域の底力再生事業助成金」を活用。

・東京都助成金には上限がある為、差額については自治会費から支出。



見守り活動中

### 【4. 苦労点】

- (1) 安否確認には緊急連絡先情報が必要のため、全世帯を対象に個別訪問し、説明しながら理解を得るのに長期間を有した。
- (2) 不慣れなため、東京都の申請書類や完了報告書類の作成に苦労した。
- (3) 不在の世帯が多く、フラッグの取り付けには繰り返し訪問により完了までに時間を要した。
- (4) 安心フラッグ設置により在宅状況が一目で分かるようになった為、防犯上の観点から地域外どこまでの周知が必要か悩んだ。

### 【5. 効果】

- (1) 通勤の行き帰りにはフラッグの設置状況を確認し、複数回安否確認のため個別訪問を実施した。
- (2) フラッグの設置確認以外にも、雨戸の開閉状況や、夜間の灯火状況にも関心を持つようになった。
- (3) 会員同士が互いの在宅状況に関心を持つようになり、**防犯上の効果**にも期待が持てる。

## 第5支会

# 避難所宿泊体験会の開催

第5支会は、青梅市の中でも土砂災害警戒区域が多く、260箇所が指定を受けています。幸いにもここ数十年、大きな災害は発生していませんが、近年、日本各地で起きている今まで経験した事のない様な豪雨や大型台風襲来等による、多数の土砂災害を目の当たりにし、関心も非常に高まっています。

今回、台風接近により土砂災害避難準備情報が発せられとの想定で、自主避難者の避難所宿泊体験会を開催しました。

- ・日時： 8月29日19:00～8月30日8:00
- ・場所： 沢井市民センター 多目的室
- ・狙い： <1>各家庭での非常持出品の準備、見直し  
<2>避難所受入体制の確認  
<3>宿泊時の課題、問題点洗い出し
- ・参加者： 合計36名（内宿泊体験者：12名）

冒頭、青梅消防署日向和田出張所 指田所長から土砂災害についての講演をしていただきました。

また、君島青梅消防署長も激励に駆けつけてくださり、土砂災害等についてお話しをしていただき、大変参考になりました。

当日、宿泊者はフローリング床にマットを敷きシュラフにもぐり込んで寝ましたが、多目的室の階下には、下水道のポンプ室があり、その騒音で中々寝付けませんでした。いつのまにか夜が明けていました。

今回、初めて避難所宿泊体験会を開催しましたが、宿泊者は自治会長のみとなり、関心はあるものの、宿泊体験はしなくてもという人が多かった様です。

最近、雨雲情報や雨量情報も簡単に入手出来る様になっていますので、これら情報も取りながら、早めの避難や地域の助け合い等、危機管理体制を高めて行きたいと思えます。

避難所入口



指田所長の講演



君島消防署長のお話





## 「消火栓取扱い訓練」

地域に住んでいても「知らなかった事」ってありませんか。

何処に消火栓があるか、防火収納箱の中にどのような器具が収納されているか？体験してみようと、地元消防団のご指導をいただき「消火栓取扱い訓練」を実施しました。

まず始めに、防火収納箱には活栓棒、筒先、十字（消火栓開ける）、ホース（65mmと50mmがある）が収められています。これらの工具を実際に使い訓練しました。

日 時 平成27年4月12日(日) 午前10時15分～12時  
場 所 三田保育園前道路  
参加者 大人38名、子供10名、消防団7名 計55名

### 「消火栓取扱い実施手順」

- ①消火栓蓋を開きホースを垂直に消火栓受け口に接続-----グループ毎の体験
- ②ホースを延長する為の接続方法（今回は延長ホース1本接続）-----グループ毎の体験
- ③先端ホースに筒先を接続-----グループ毎の体験
- ④最後はグループ毎に3人1組で放水体験



### 【訓練を終えて】

”いざ”と、いうとき身近に在住している住民の力、知っておいて役に立つ教訓。日頃気にならなかった防火収納箱の存在、初めての試みに参加された多くの方が体験できた事を感謝しておりました。

以後隔年ごとに、消防団の協力を得て、忘れないうちにまた訓練を継続的に実施する事になりました。